

令和 5 年度 学校評価自己評価表

中期 経営目標	短期 経営目標	具体的な取組・方策	評価指標	実績値	目標値	評価 (自己評価の結果)		改善策
				令和 4 年度	令和 5 年度	1 回目	2 回目	
【知】 確かな学力を 身に付ける。	○主体的・協働的に学ぶ力と思考力・判断力・表現力を身に付ける。	○国語科、算数科、理科を中心に授業改善を行い、思考力・判断力・表現力を高める。 ・主体的・協働的な学び ・個別最適な学び	○各学年の 3 教科（国・算・理）の全テストの思考・判断・表現の到達度の平均が 80％を上回る割合【新規】 ・80％以上を目標にする。（各学年の国・算・理の 3 教科で判定し、分母を 16 とする）	87.5％ (14/16)	80％以上 (13/16)	1 学期結果 62.5％ (10/16)	2 学期結果 75.0％ (12/16)	目標値には達していないが、1 学期を上回った。目標値を大きく（10%程度）下回ったのは、3～5 年の算数で、今年度から単元内自由進度学習に取り組み始めた学年である。数値には表れないが、自分で学習を進めようとする態度は育ってきている。次年度は 3 年生以上で、国語と算数を中心に単元内自由進度学習を進める。1・2 年生では、学習の進め方の基礎を養う。個々の進度や学習状況に合わせて、教材や教具、ワークシート等の準備をするなど、個の学びを進めるための支援が必要である。
	○課題発見・解決能力とふるさとのよさや自分たちのよさを堂々と語る表現力を身に付ける。	○学習課題について、自分の考えを相手にわかりやすく伝える力を高める。 ・年間 2 回、発表の場を計画的に設定	○児童・教員意識調査【継続】 「自分の考えを相手に応じて言葉の使い方や表現の仕方などを工夫して伝えることができる。」	児童 教師 89％ －	児童 教師 90％ 80％	児童 教師 70％ 78％	児童 教師 85％ 92％	児童・教師共に肯定的な回答が増えた。他の項目と比較するとまだ低い方ではある。朝の会等でのスピーチ・フリートークや授業で児童一人一人に考えを説明させる課題や場面を設定し、日々、話すことや説明することに取り組ませている。次年度も、授業や生活の中で児童が話したいと思うことを提示し、相手意識をもって伝える活動を続けていく。
【徳】 自他を大切に し、よりよく 生きようとする 力を育てる。	○自他を大切に し、相手の気持ちも考えて行動 できる自己指導 能力を身に付ける。	○生活行動規範「きらきら切串っ子」を徹底させる。【新規】 (1)気持ちの良いあいさつができる子 (2)時間いっぱいそうじができる子 (3)はき物をそろえられる子 (4)温かい関わりができる子	○児童・教員意識調査【新規】 「わたしは、気持ちの良いあいさつをしている（をしようとしている）」 「わたしは、時間いっぱい掃除している」 「わたしは、はき物をそろえている」	児童 教師 あいさつ 84％ 82％ そうじ 89％ 91％ くつそろえ 98％ 100％	児童 教師 あいさつ 90％ 90％ そうじ 90％ 90％ はきもの 95％ 90％	児童 教師 あいさつ返事 94％ 100％ そうじ 98％ 100％ くつそろえ 94％ 100％	児童 教師 あいさつ返事 98％ 100％ そうじ 98％ 100％ くつそろえ 96％ 83％	委員会で企画をしたり呼びかけたりするなど、よりよい学校にするためという課題意識に基づいた、児童主体の取組を行う。 「きらきら切串っ子」について年間を通して意識させるとともに、各学級で自分たちの実態に合わせて取組を考えて、実行する。帰りの会や、生活朝会での発表等で自分たちの取組を振り返れるようにする。 児童が主体的に取り組む姿を積極的に見取り、肯定的に声をかけたり、紹介したり、励ましたりできるように全職員で関わる。
		○よりよく関わり合える力を高める。 ・道徳科の充実 ・なりたい自分の設定 ・日常のプラスの評言 ・キャリアログの作成	○児童意識調査【継続】 「わたしは、相手のことを考え、優しい言葉をつかっている」	児童 教師 91％ 100％	児童 教師 93％ 100％	児童 教師 98％ 90％	児童 教師 91％ 100％	学習や行事、委員会・児童会活動と関連させて、なりたい自分について設定したり、振り返ったりできるようにする。普段の授業や学級活動の中で、優しい言葉や態度を全職員で意識的に見取り、価値づける。クラスや異学年で交流する場を設定し、お互いの意見や存在を大事にできるように指導する。
【体】 主体的に健康 を保持増進する 力を高める。	○バランスのとれた生活習慣をつくる力、主体的に運動に取り組む力を身に付ける。	○運動をする習慣をつけるとともに、体力づくりの様々な場を通して体力を総合的に高める。 ・体育科の授業改善 ・記録証つづりの活用 ・体育的行事における確な目標設定と振り返りの充実	○1 日の運動や外遊びの時間が 30 分以上の児童の割合【継続】 ○新体力テストにおいて、前年と比べて判定が現状維持、もしくは向上した児童の割合を 7 0％以上にする。また、設定した重点種目の再測定（2 学期）で記録が向上した児童を 7 0％以上にする。【新規】	86％ 65％	70％ 70％	71％ 昨年度との比較 84％	66％ 今年春と秋の比較 長座体前屈 65％ 20m シャトルラン 12％	生涯体育に繋げることを意識し、「する・みる・知る・支える」といった多様な関わり方の中で、児童が運動の特性や楽しさを味わえる授業づくりを行う。問や課題を明確にし、児童が授業の見通しや目的意識をもって主体的に学べるようにする。 業間運動を継続し、休憩時間に体を動かす習慣を作る。運動会や持久走大会、縄跳び大会と関連させ、めあてをもって取り組めるようにする。
		○個別の保健指導、学期末の保護者懇談を通して、啓発と実践化を進める。 ・健康課題の主体的設定と振り返りの充実	○「元気チャレンジカード」の目標達成の割合【継続】 ○早ね、早起き、朝ごはん目標の達成者の割合【継続】	72.3％ 早ね 72.3％ 早おき 91.5％ 朝ごはん89.4％	80％ 早ね 80％ 早起き 85％ 朝ごはん 90％	89.6％ 早ね 89.6％ 早起き 97.9％ 朝ごはん 100％	2 学期 3 学期 健康の目標 79.2％ 85.4％ 早ね 81.3％ 77.1％ 早おき 89.6％ 87.5％ 朝ごはん 91.7％ 97.9％	2 学期の健康の目標は「運動・外遊び」に関する目標を立てた児童が多かった。酷暑による外遊びが困難な状況があり、目標達成が難しかった。決められた時刻までに就寝するという達成度は年間通して下降し続けた。年度当初の意欲が継続できるよう、取組が単調にならないように児童とともに取組の具体策を考えていく。